



新庁舎建設だより 1

新庁舎実施設計の概要をお知らせします

広報南九州2月号では、実施設計の完了に伴う新庁舎建設事業の事業費や国の支援および市の実質的な負担額についてお知らせしましたが、4月号と5月号では、設計コンセプトや外観、内観など実施設計の概要版の一部を紹介します。

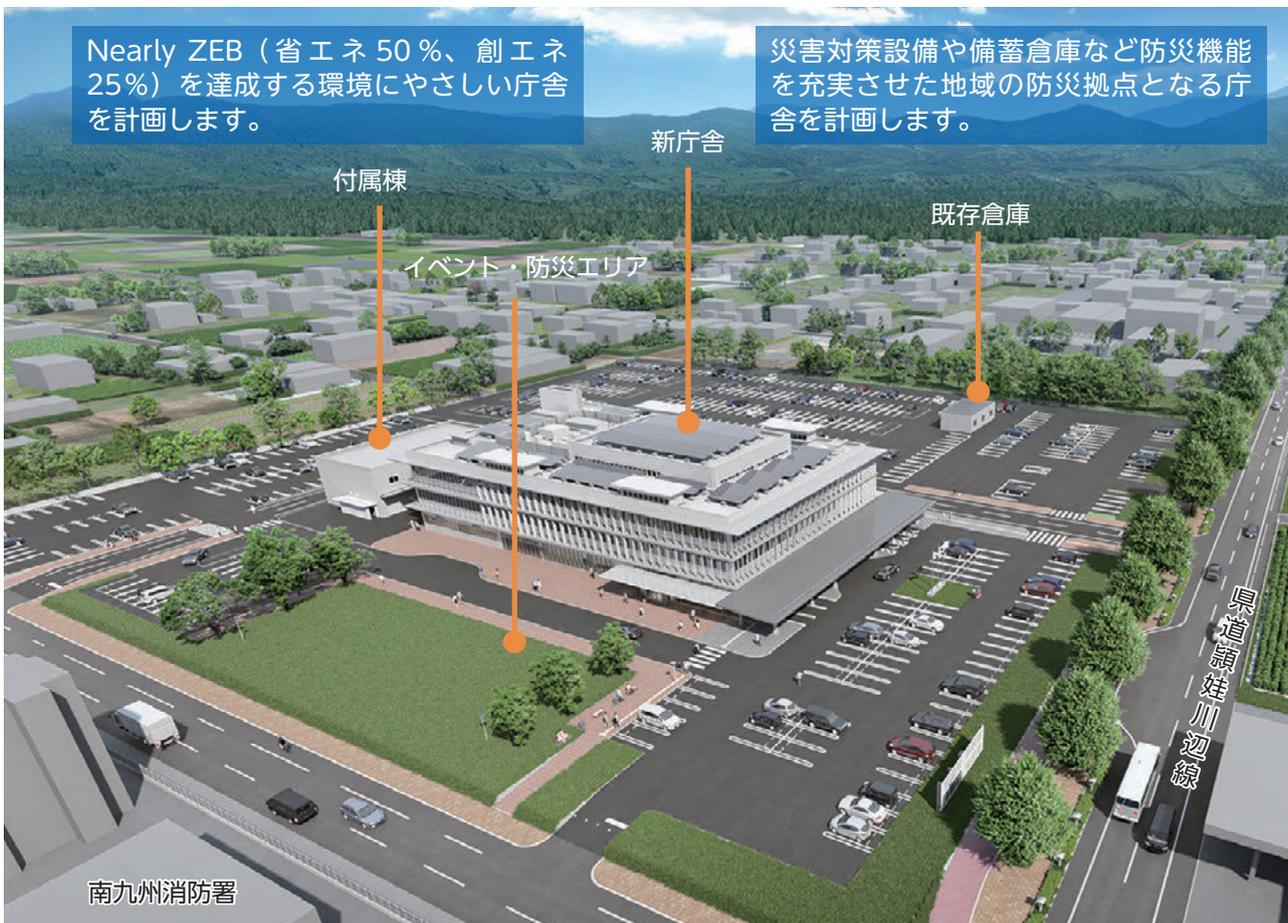
なお、市ホームページには「新庁舎建設実施設計書 概要版」を公開していますので、併せてご覧ください。

基本設計【概要版】はコチラからご覧いただけます。⇒



【設計の基本理念・方針】

- ① 地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎
- ② すべての人にやさしい庁舎
- ③ 機能的・経済的なコンパクト庁舎
- ④ 環境にやさしい庁舎
- ⑤ まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎



■南東側から見た新庁舎全体のイメージ

※イメージ図は現時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

【建物の概要】

敷地住所：南九州市知覧町郡 17327 番地ほか
 階数：地上3階建（本庁舎）、地上2階建て（付属棟）
 建築面積：2982.73㎡（本庁舎）、463.66㎡（付属棟・渡り廊下）
 延べ面積：6527.83㎡（本庁舎）、883.12㎡（付属棟・渡り廊下）
 構造種別：鉄骨造（本庁舎、付属棟・渡り廊下）
 基礎工法：杭基礎（本庁舎、付属棟・渡り廊下）
 駐車台数：95台（来庁者用、思いやり駐車場3台） 72台（公用車用）、328台（職員用）
 駐輪台数：20台（自転車）、10台（バイク）

【防災計画】 ★基本理念・方針 ①地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎

①地震対策（耐震性能 目標 I 類、重要度係数 1.5）

構造体は大地震動後、人命の安全確保に加えて十分な機能が確保できる耐震性能（I類）とします。
 大地震時に建物に求められる地震抵抗力（建築基準法で定める数値）の1.5倍相当とし、災害対応拠点施設として機能が維持できる計画とします。

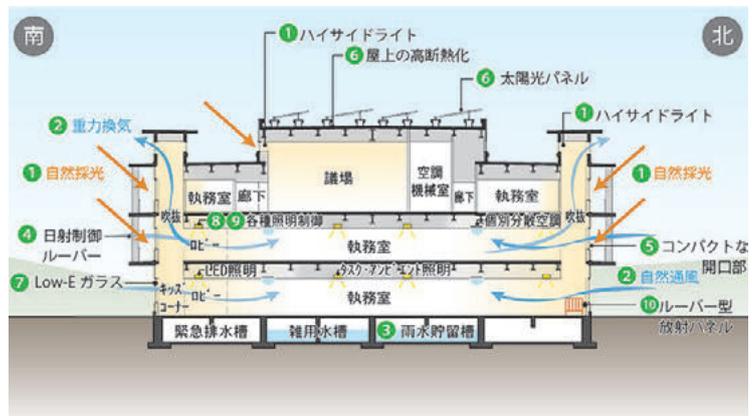
②防災拠点機能の充実

インフラ等	本計画における対応	
災害対策室等	災害対策本部（災害対策システム）、受援スペース、防災広場（マンホールトイレ）	
備蓄倉庫	付属棟 1階 水・食料・防災備品を保管	
電力	発電機	非常用発電機（72時間分備蓄、燃料補給で7日間運転）
上水道	飲料水	備蓄したペットボトルにより飲料水を確保する（備品）
	雑用水	ピットの雑用水槽（雨水）の給水ポンプを稼働し、トイレの洗浄水として利用する。（7日間の水量を確保）
下水道	排水ポンプ	非常電源を供給し、稼働
	排水槽	緊急排水槽をピット槽に設置（7日分）
法的な設備	非常用照明、消火設備、非常放送設備、自動火災報知機	

【環境配慮計画】 ★基本理念・方針 ④環境にやさしい庁舎

新庁舎はコンパクトな形状として経済性に優れ、環境に配慮した施設とします。エネルギー使用の削減や再生可能エネルギーの導入により Nealy ZEB（省エネ 50%、創エネ 25%）認証を目指します。

- ① 自然光の活用：ハイサイドライトなどにより自然光を活かした内部空間とします。
- ② 自然換気の促進：吹抜けを活用した温度差による重力換気を促します。
- ③ 雨水貯留槽：トイレの洗浄水に雨水を利用する計画とします。
- ④ 庇とルーバー：日射遮蔽による適度な採光と冷房負荷の低減を図ります。
- ⑥ 熱負荷の低減：太陽光パネルや外壁・屋上の高断熱化により熱負荷の低減を図ります。
- ⑦ Low-E ガラス：窓面からの日射負荷を抑制します。
- ⑧ 人感センサー：消し忘れを防ぎ無駄な電力消費を削減します。
- ⑩ ルーバー型放射パネル：居住域空調とすることで快適性と省エネルギー性に配慮します。



■南北環境断面イメージ図

[問] 知 新庁舎建設推進課